

平成28年9月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成28年9月の山梨県内の全業種のD I値（前年同月）は、景況感マイナス12ポイントと前月から10ポイント改善したが、売上高マイナス16ポイントと3ヶ月ぶりに悪化、収益状況もマイナス16ポイントと4ヶ月連続で悪化した。前月比で比較すると製造業は景況感是不変、売上高は20ポイント大幅に改善したが収益状況は5ポイント悪化した。非製造業の前月比は、売上高は不変、景況感17ポイント改善、収益状況は3ポイント悪化した。

製造業では、海外経済の減速の影響による受注の減少、停滞、輸出の不振に加え円高による原材料の値上がりによる消費マインドの低下を懸念する報告が寄せられた。

非製造業では、円高や中国における関税の引き上げなどにより爆買い中心だった中国人旅行者の減少、中国人バイヤーの取引金額の低下、前月の台風などの天候不順による野菜の高騰等により国内の景気が冷え込んでいる。

また、経営資源の一つである人材不足が顕著となっている。地域経済を支える中小企業の経営力、競争力強化のための若年技能者等の育成・確保、企業が有する技術・技能の継承が急務となっている。個企業で取り組むには課題も多いことから、組織力を活用した早急な取り組みが望まれる。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフト関係は横ばい。ホテル・レストラン等向けの生食材は伸長し、全体の売上は前年同月比141%だったが、原材料の値上げなどにより利益には繋がらなかった。
食料品（洋菓子製造）	OEMは前年並みであったが、自社製品の量販店、専門店向けや輸出が不振、特に彼岸用ギフト商品が足を引っ張り、全体の売上は93%と前年を下回った。
食 料 品（菓子）	9月の売上は、昨年対比10%減少。菓子職人の高齢化により新たな雇用をしたいが職人の人材自体が不足。
繊維・同製品（織物）	裏地やネクタイは低調、インテリア関係は高級ホテル関連の受注は順調、傘地も夏期からの台風などにより順調に推移。
繊維・同製品（アパレル）	企業間格差が広がっている。
木材・木製品製造	先行きが見えない経済環境の下、住宅着工が減少し厳しい状況。
窯業・土石（砂利）	公共工事が徐々に始めているが、景況感が好転したとまでは感じられない。
窯業・土石（山採石）	4～8月の製品出荷量は、前年同月比2.5%以上減少。諸資材の高騰により、利益率は下降気味であり、設備投資が出来ない状況が続いている。さらに、RC（再生材）材は公共事業に積極的に使用することとなっているが、17%の減少となり、公共事業費の減少が顕著であることが推測される。

鉄鋼・金属	昨年より若干よくなったが、来年の見通しは不明。
一般機器	海外経済減速の影響により工作機械関連が落ち込み製造業は厳しい状況だが、先月(8月)より全体的には受注状況が改善傾向。
電気機器	世界的に経済が冷え込んでいるため、業況が全体的に前年より悪化し続けている。
宝飾(貴金属)	昨年までの受注状況が悪かったため、数字だけは回復したが、業況はとても回復基調とはいえない。

● 非製造業

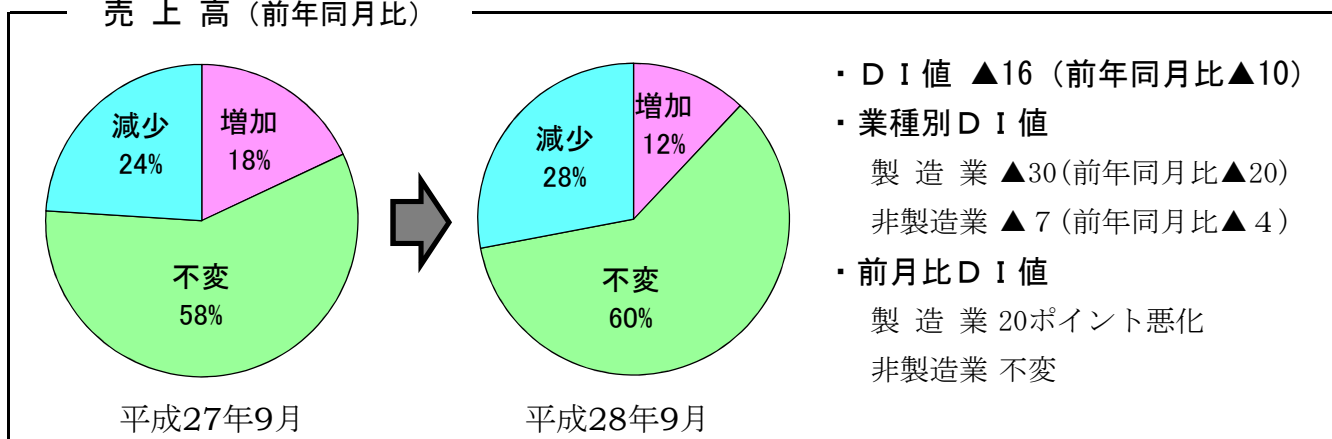
卸売(ジュエリー)	国内流通は低調。中国経済の減速等により取引内容も低下しているが、低価格のピアス、イヤリング等の売上は増加傾向にある。
小売(青果)	東北や北海道で収穫期を迎えた野菜等が、台風や長雨により収穫ができないため品不足となり価格が前年対比20~50%上昇。そのため、消費者マインドはさらに冷え込んでいる。
小売(食肉)	昨年に比べ食肉相場が安定してきている。しかし、年末に向け出荷頭数が少ない牛肉は昨年以上に高騰する見込み。
小売(電機製品)	量販店は好調だったが、地域店は大幅ダウンとなった。テレビ、エアコンは横ばいだが、冷蔵庫や太陽光発電等が前年を大きく下回った。
宿泊業①	円高と帰国時の中国関税の影響により中国からの旅行客が減少。
警備業	前年同月比で業況は好転しているが、人員確保が難しい。
建設業(総合)	9月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ件数は41%増加、請負金額は38%増加。9月までの累計では、件数で12%増加、請負金額では11%増加。
建設業(型枠)	公共・民間工事ともに多少動きがあるが、例年より動きが鈍い。一昨年に比べ仕事量が大幅に少なく、先行き不安。
建設業(鉄構)	県内の物件は少なく、首都圏に依存する傾向が続いている。
設備工事(電気工事)	公共工事の発注が少しずつあるが、新築ではなく改修が大半。街中も建物がなくなり駐車場が増加。
設備工事(管設備)	仕事量の減少により収益が悪化。また、配管工等の職人や経営者の高齢化により技能者確保が難しい。
運輸(タクシー)	乗務員が1人減少。雨が多く人の動きが少ないため売上減。特に、夜の乗車客数が減少。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

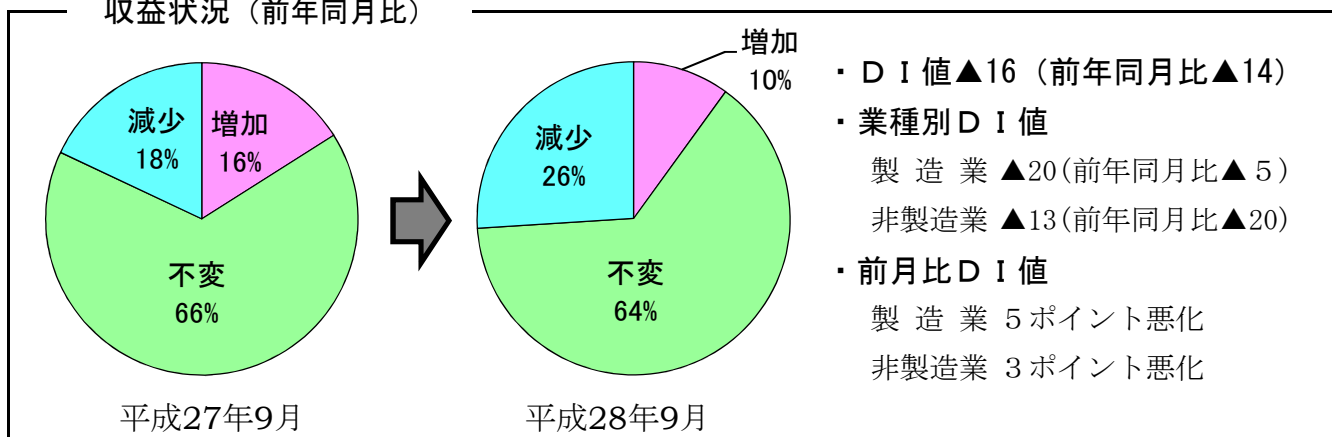
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2015/9	2016/8	2016/9	2015/9	2016/8	2016/9	2015/9	2016/8	2016/9
売 上 高	-10	-10	-30	-3	-7	-7	-6	-8	-16
収 益 状 況	-15	-15	-20	7	-10	-13	-2	-12	-16
景 況 感	-20	-15	-15	-17	-27	-10	-18	-22	-12

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) =D. I 値

売 上 高 (前年同月比)



収 益 状 況 (前年同月比)



景 況 感 (前年同月比)

